



報道機関各位

熊本大学

「地域経済の回復・再生・創成に向けた世界最先端観測機器による
水中環境調査事業」(熊本大学 震災復興・日本再生支援事業) について

熊本大学では、東日本大震災への対応として、被災地出身学生への支援、医師等の派遣、義援金の送付等に加え、「熊本大学 震災復興・日本再生支援事業」として大学の専門分野を活かした支援活動を実施しています。

支援事業の一つである「地域経済の回復・再生・創成に向けた世界最先端観測機器による水中環境調査事業」は、一般社団法人国立大学協会との共催で実施している事業で、世界最先端の性能を有する音響解析装置及びモニタリングロボットで地形・底質を調査し、収集した位置情報、画像及びサイドスキャンイメージに基づいて、高精度3D地形図と底質・流失物の分布図を作成し、自治体等に情報を提供することにより災害復旧、産業復興に資することを目的としています。

地震及び津波で甚大な被害を受けた気仙沼湾では、早期の漁場回復、産業再生、さらに雇用創成のために、流出した石油タンクから漏出した油による2次被害を防ぎつつ、瓦礫を撤去して、養殖事業を復活する必要があるため、そのためには海中に残されている瓦礫の量、種類、位置を正確に把握することが求められていました。そこで、宮城県等から依頼を受けた本学沿岸域環境科学教育研究センター 秋元和實准教授を中心とするグループでは、昨年11月28日から12月7日にかけて気仙沼湾西湾域の海中環境を調査し、高精度の3D地形図と底質・流出物の分布図を作成して、これに基づく地形・底質に関する環境評価及び瓦礫の分布特性の概要を宮城県、気仙沼市及び宮城県漁業協同組合に提供しました。

次年度以降は、気仙沼湾の他の海域を調査し、被災地の復興・再生に資する情報を引き続き提供していく予定です。

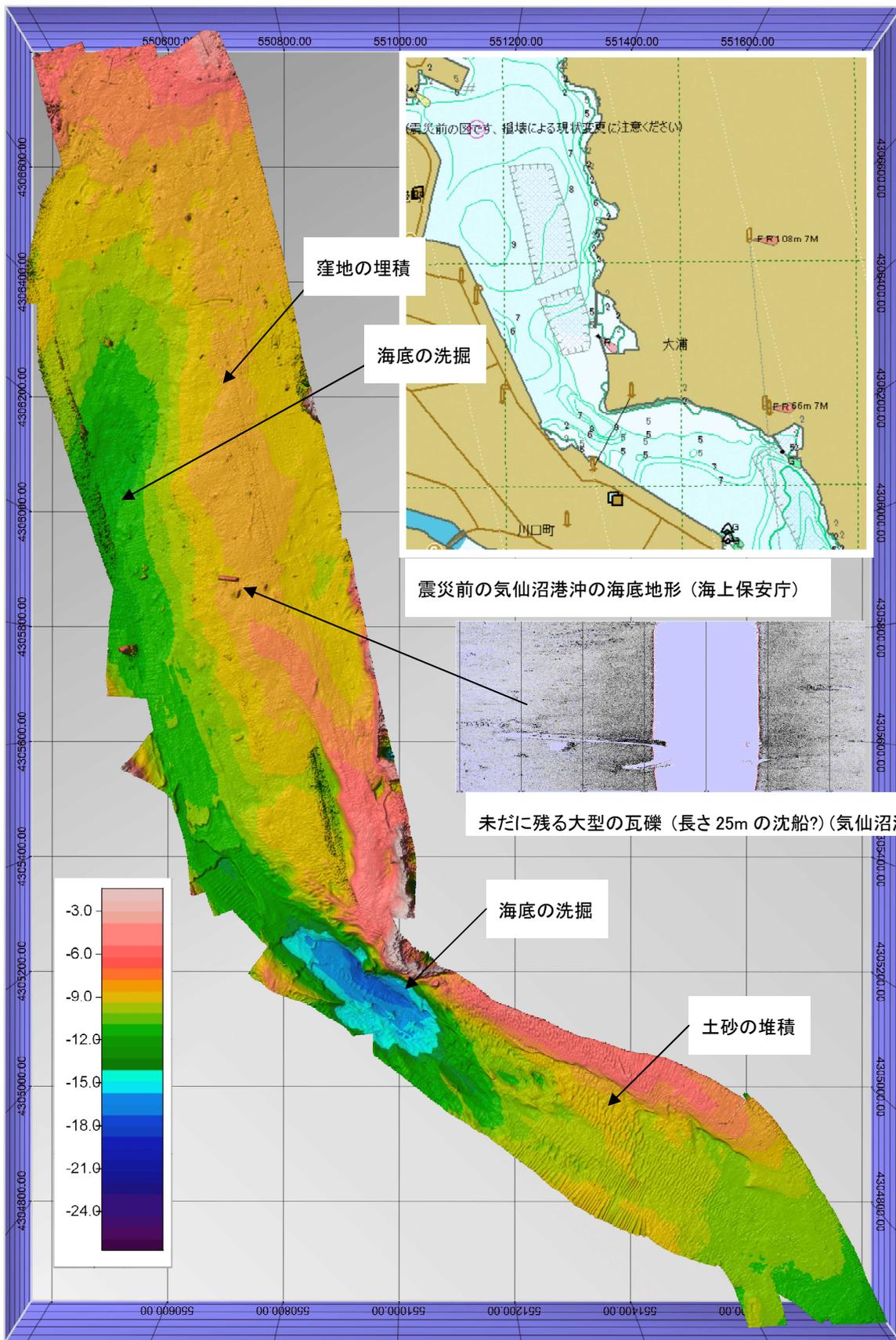
本学では、今後も全力を挙げて息長く支援活動に取り組んでまいります。



海中の瓦礫処理現場での音響解析装置の艀装作業（2011. 11. 28：波路上漁港にて）



強風の下での現地調査（2011. 12. 2：階上漁港にて）



震災後の気仙沼湾奥部の地形

問い合わせ先

熊本大学沿岸域環境科学教育研究センター

担当 秋元 和實 准教授 (Tel 096-342-3426)